

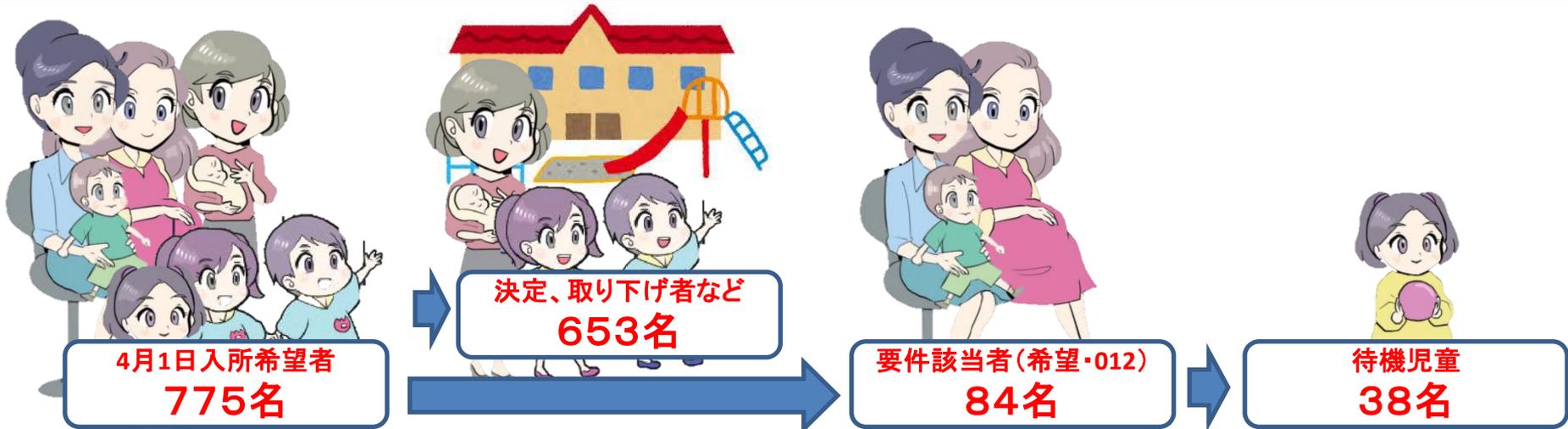
待機児童数と古河市の保育環境について

平成29年6月29日

古河市子ども・子育て会議

I 待機児童数に関する報告

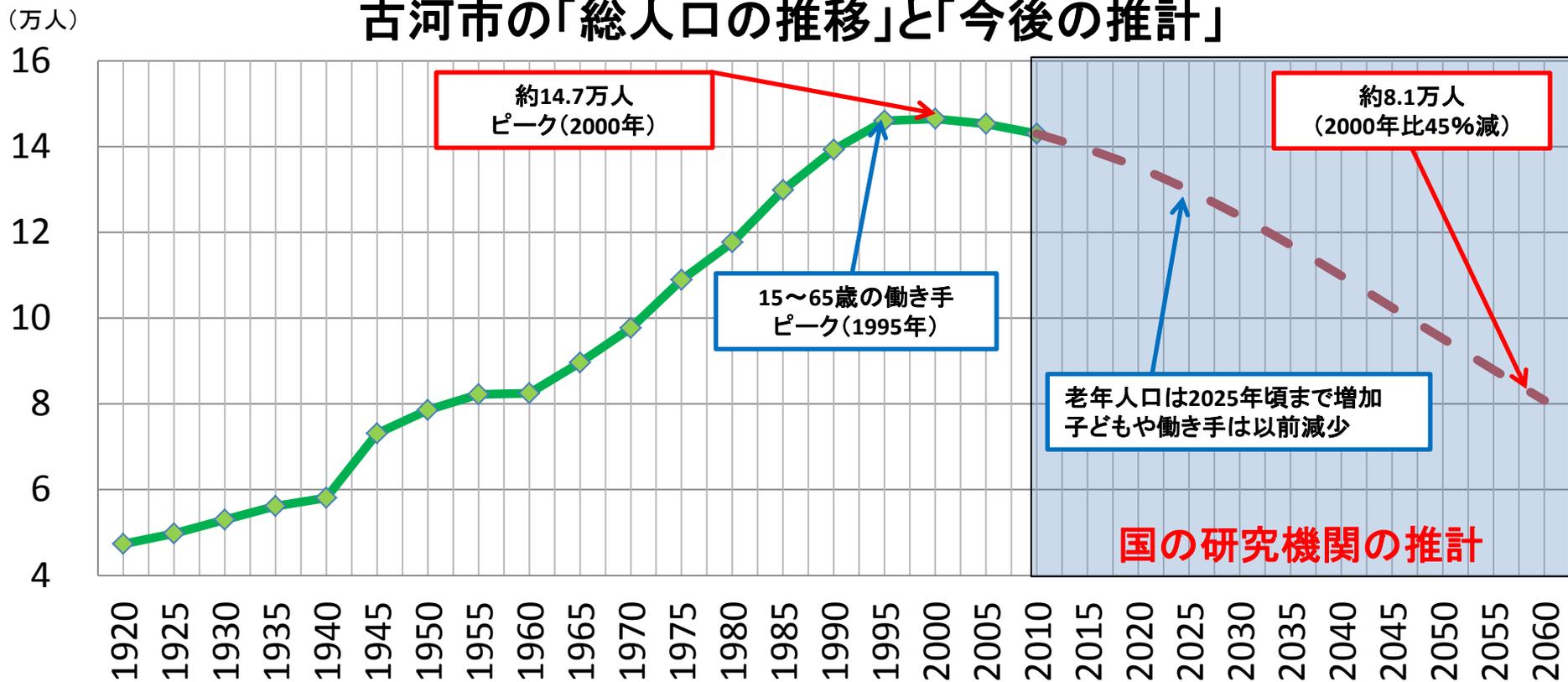
今年度の待機児童について



年齢	利用調整者数 (A)	決定者等 (B)	要件該当者 (C)	待機児童 (D = A - B - C)
0歳	269人	248人	18人	3人
1歳	234人	182人	33人	19人
2歳	138人	95人	27人	16人
3歳	93人	89人	4人	—
4歳	23人	21人	2人	—
5歳	18人	18人	—	—

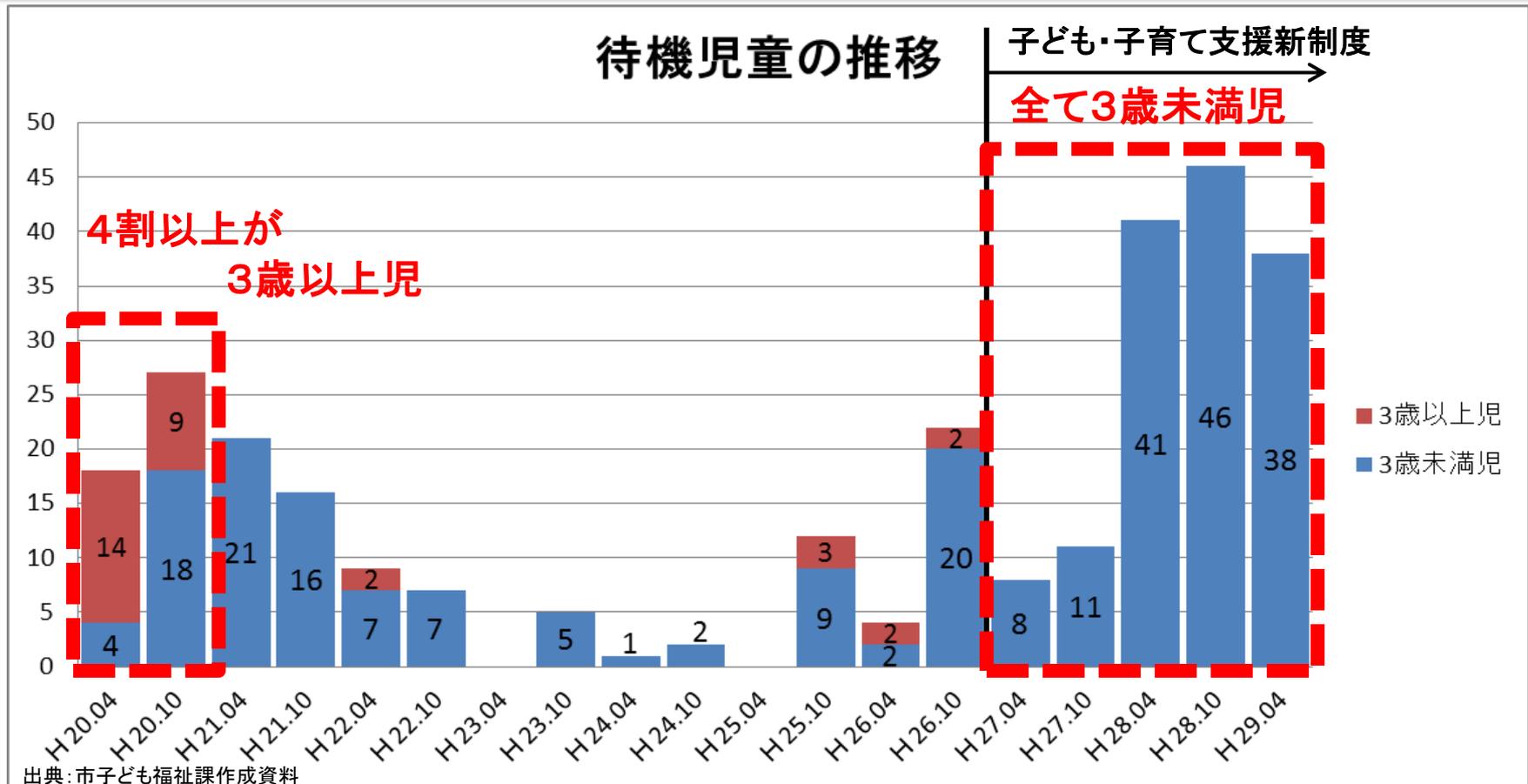
Ⅱ 保育環境関連データについて

①古河市の人口推移と推計について



- 人口減少により、市の財源(税金)は減少。
 - 老年人口の増加により、医療費などの社会保障経費の増加。
- ⇒「収入は少なくなるけど、支払は増えていく。」
- ★ 推計では国・県よりも人口減少速度は深刻と予測している。

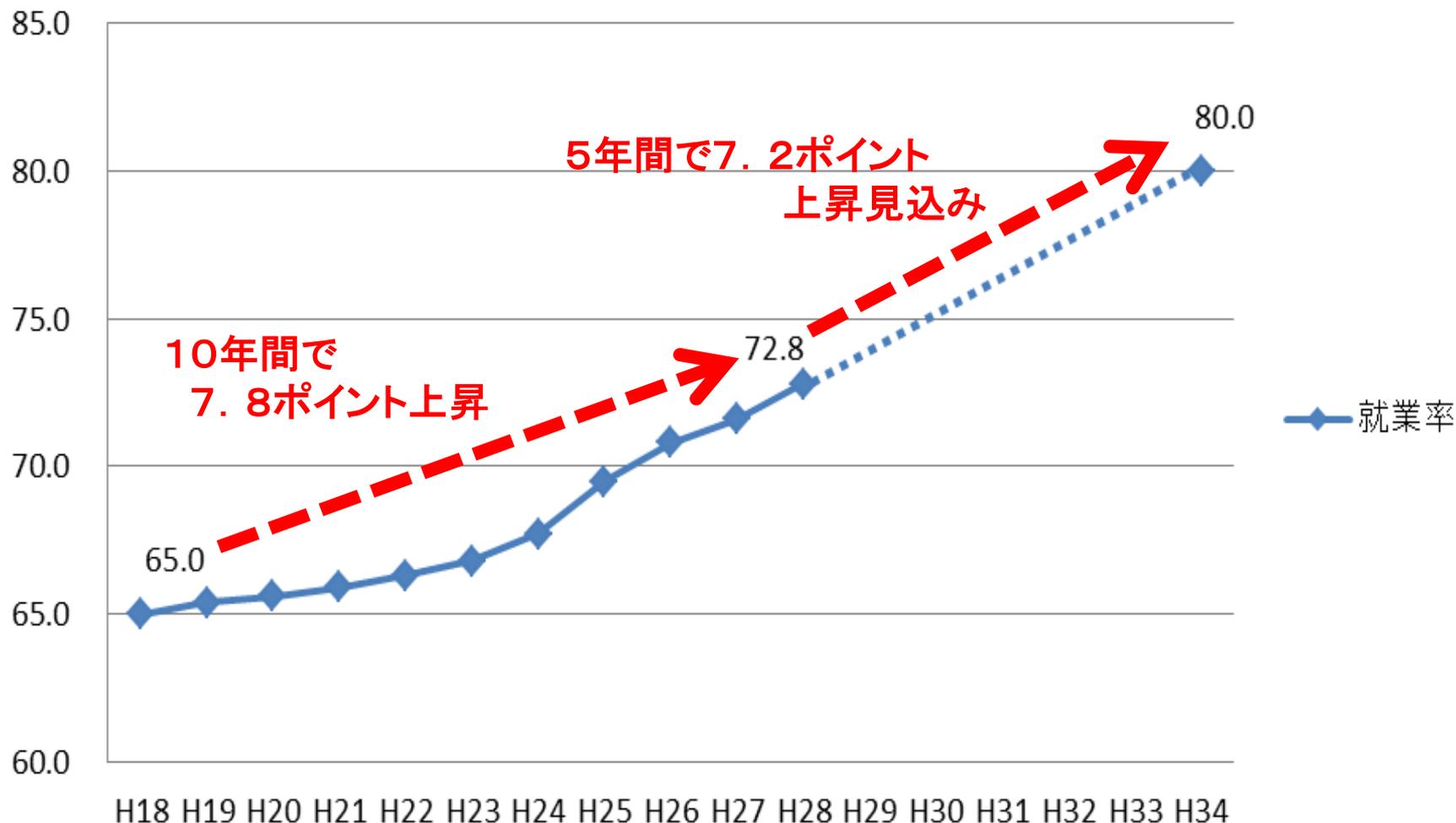
②古河市の待機児童の推移について



- 定義が新制度の開始や調査内容の変更により、変わってきているので注意。
- 古河市の待機児童はここ数年で大幅に伸びており、3歳未満児が中心となっている。
- 今年度の4月1日時点での待機児童数は38名と昨年度と比較し減少した。
 - ⇒ 市全体として、量の拡充が必要と認識している。
 - ⇒ 少子化は進展するものの、保育ニーズは高まっている状況にある。

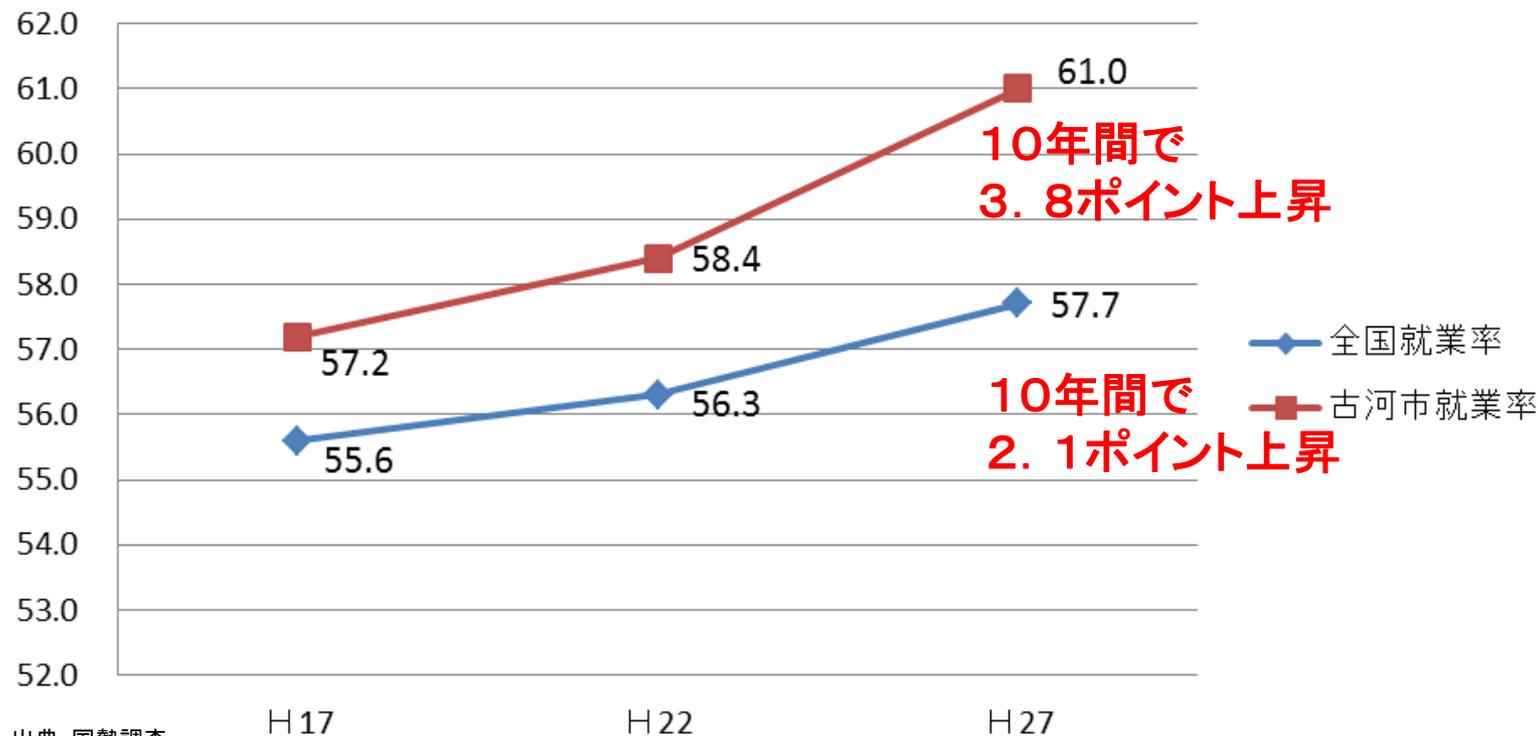
③全国の女性就業率(労働力率)について

全国の女性(25~44歳)の就業率の推移



④古河市の女性就業率(労働力率)について

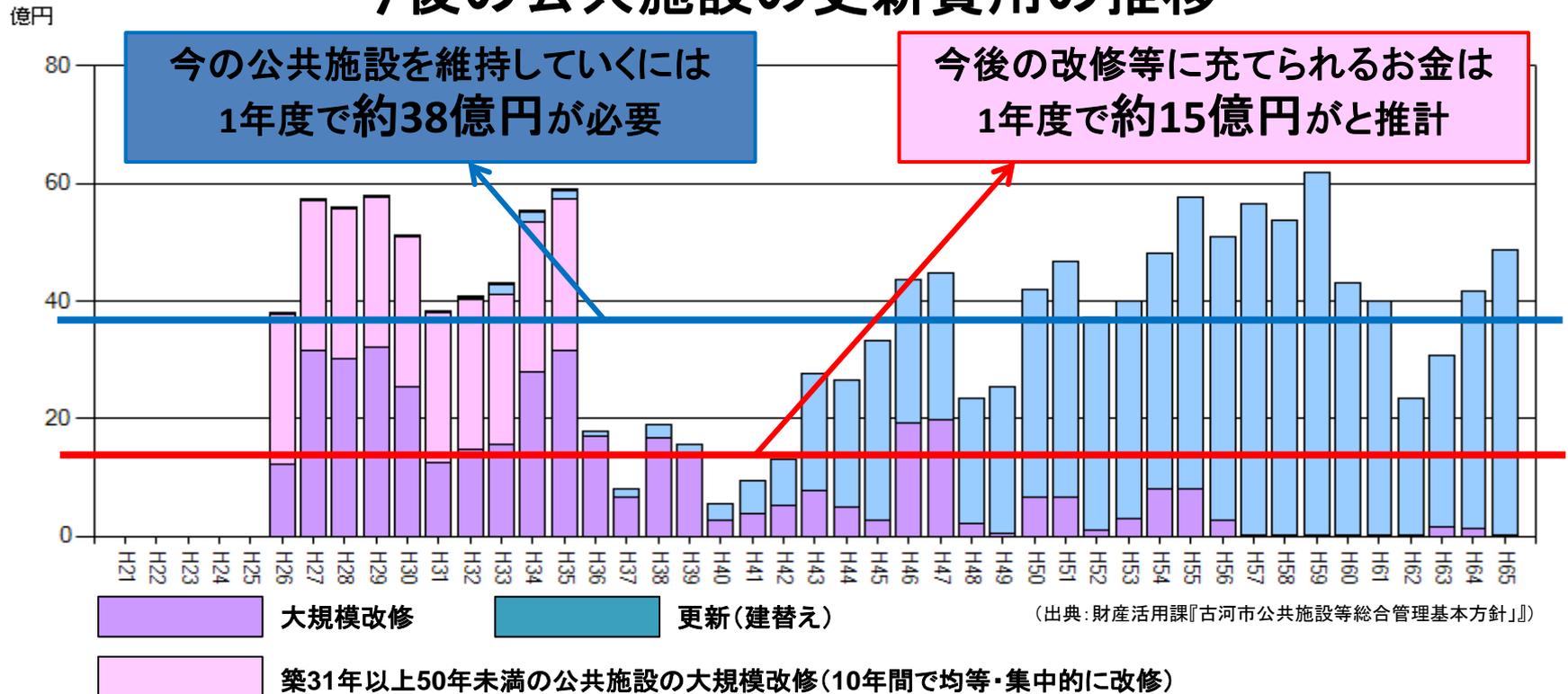
女性(25~44歳)の就業率の推移比較



- 古河市の25歳から44歳の女性の労働力率は全国よりも高い。
- さらに、伸び率は全国が10年で2.1ポイント増に対し、市は3.8ポイント増となっている。
 - ⇒ 今後も女性の労働力率は向上する見込み。
 - ⇒ 女性就業増を踏まえ、将来的な入所希望率を見込む必要がある。

⑤インフラ老朽化への対応

今後の公共施設の更新費用の推移

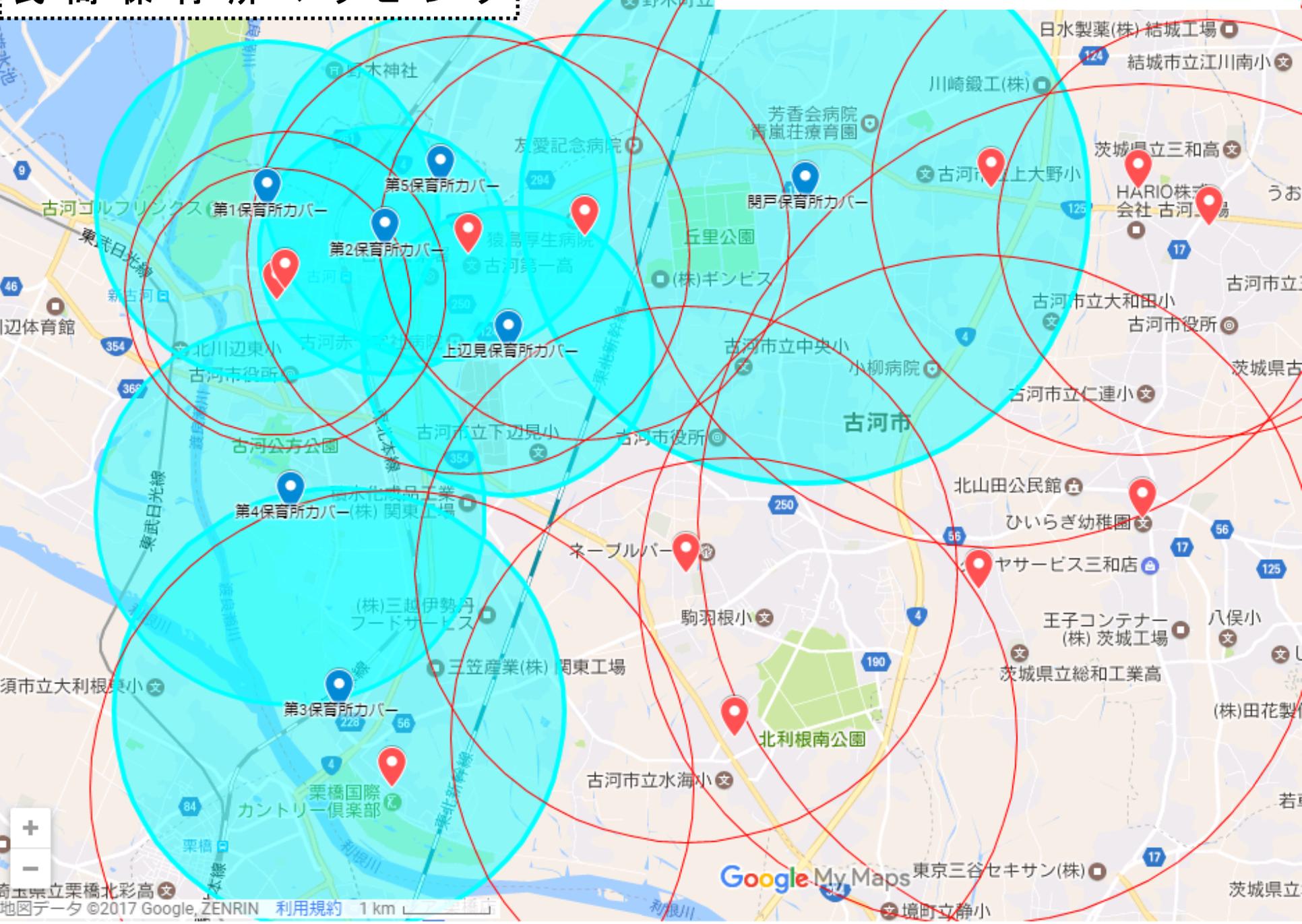


○ 今後10年間かけて、築50年未満の公共施設の改修を行っても、その後、建替えの発生が推計されている。

⇒「人口増の時代に作った公共施設等を人口減の時代を見据えて、マネジメントしていく必要がある。」

Ⅲ 市内保育施設のカバー範囲の推定

民間保育所マッピング



幼保連携こども園マッピング



まとめ

将来人口

- 既に古河市は人口減少局面に入っており、今後も人口減少が見込まれている。
- 少子高齢化が進むことにより、市の財政にも影響が見込まれる。

保育環境に影響がある年齢の将来人口を、過少に見込み過ぎず適格に見込む。

女性の就業

- 女性の労働力率は全国平均と同様に伸びてきており、全国よりも高い。

保育ニーズを見込むうえでは、女性の就業の伸びを見込む。

施設老朽化

- 公共施設全ての建替えに充てることのできる財源と更新費用には大きな乖離がある。

公立保育所をどのように運営していくか、将来を見据え検討していく必要。

カバー範囲

- 古河市全体における官民保育施設のカバー範囲は、重複がある。

今後の少子化を見据え、官民が競合せずに連携して取り組む環境づくりが必要。

待機児童を解消するために、公立保育所を次々に拡大していくのではなく、官民の関係も再度見直し、古河市全体で保育環境の充実させる一歩になるよう計画をしていきます。